

【報告】

歌舞伎舞踊衣裳の博物館資料化と情報公開

Collection of Kabuki Dance Costume Resources at the Art Museum
and Information Dissemination

鈴木 保彦[※]

Yasuhiko SUZUKI

Abstract:

The Art Museum of the College of Art at Nihon University collects a lot of materials for education and the research and exhibits them to the public.

In 1977 it inherited a set of Kabuki dance costumes from Mitsuwa Costumes, a costume rental company. Most of the costumes were used in "Mitsukoshi Kabuki" performances. They are a very important part of the heritage of Japanese traditional performing arts for education and research and they are exhibited in our museum.

Nihon University has been supported by the Open Research Center of the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology to promote a variety of projects including digitally recording images of kabuki dance costumes and making them available to the public, in high resolution, 22 million pixels, on the web. The information is connected through a system of hyperlinks that allows the viewer to access the images freely.

This is a report of the activities of this Museum.

1. 日本大学芸術学部と芸術資料館

日本大学芸術学部は、1922年（大正10年）法文学部のなかに美学科が誕生した時に始まるが、創設以来、今日にいたる間に教育・研究のための資料として、芸術に関する多くのものを収集し、展示・公開してきた。収蔵資料は、写真、映画、美術、デザイン、音楽、演劇等にかかるものである。後述する演劇関係以外のものでは、オリジナルプリントの収集に力をいれており、現在日

※ 日本大学芸術学部

本人作家、外国人作家合わせて約3500点のオリジナルプリントを保有している。これらは長期保存用の材料で装丁、収納され、温度20度、相対湿度40%に常時保たれた収蔵庫に保管されている。また、映画関係の資料では、映画フィルム約700点のほか、多数のビデオ、レーザーディスク、DVDを収蔵している。これらも温度23度、相対湿度50%の収蔵庫に保管されている。これらのほかに、映画にかかる撮影、照明、現像、録音、編集、映写機材などの初期から現在にいたるまでの歴史的な機械的資料も多数保有している。美術関係の資料では、油彩、水彩、素描などの絵画、版画および彫刻などが収蔵されている。

また平成6年度からは、教育・研究の成果を社会に還元するという趣旨から、広報活動なども行いより積極的に一般公開することにした。このため芸術学部の附属機関としての資料館の規程、利用細則などもととのえ、施設の整備も行った。また広く社会に公開することから、東京都教育委員会に「博物館相当施設」の申請を行い、平成6年2月23日にその指定を受けた。

2. 日本大学芸術学部芸術資料館所蔵の歌舞伎舞踊衣裳

(1) 歌舞伎舞踊衣裳収蔵の経緯

昭和52年4月、芸術学部は「三ツ和衣裳」から歌舞伎舞踊衣裳一式を譲り受けた。これは、東京都東銀座の「歌舞伎座」が戦時中空襲によって焼失したため歌舞伎の公演が不可能となり、これに代わって戦後の一時期、日本橋「三越」本店の三越劇場で行われていた所謂「三越歌舞伎」で使用されていた衣裳が主体となるものである。

その内容は、取得時の調査によると第1表資料①、資料②のように、古典舞踊の定型の衣裳(きまり物)541点、不定形の衣裳(役柄別)979点(いずれも帯・襦袢類含まず)、素踊好みの衣裳29点、帯類220点の総数1769点となっている(着付け中心、襦袢類、頭巾、前かけ、袖よけなどの小裂は含まず)(豊田玲子 1978年)。これらの中には、歌舞伎のすぐれた演出である瞬間的な衣裳替えに使用される「ひきぬぎ」や「ぶっかえり」といった特殊な衣裳も多数含まれているほか、日本舞踊の伝説的名手、六代目尾上菊五郎が使用したとされる「娘道成寺」の衣裳4点などもある。

こうした資料は、芸術学部の演劇学科において実習授業や伝統芸能の講義のための生きた教材として、また研究資料として大切に保管されてきた。さらに日舞コースでは、こうした資料を実際に実習で使用し、公演も行っている。学生は、歴史的、芸術的価値の高いすぐれた衣裳から得られる感動、喜び、緊張等を体験することになるのであり、こうした質の高い資料を通して効果的な教育が実践されている。

(2) 歌舞伎衣裳の博物館資料化と活用

日本大学芸術学部が取得した歌舞伎舞踊衣裳は、教材、研究資料として保管されてきたが、日本の伝統芸能の資料としても大変貴重なものであることから、博物館資料としての性格を有するものであり、その活用も図られた。芸術資料館において「歌舞伎舞踊《鶯娘》舞台の今昔」、「日本舞踊扮装展—歌舞伎舞踊娘役衣裳—」などと題する特別展を開催したのである。「歌舞伎舞踊《鶯娘》舞台の今昔」では、舞台装置や衣裳とともに、意図的に照明を落とした薄暗いに舞台に

資料① 定型の衣裳〈きまりもの〉

五十音別リスト。()は衣裳の総枚数。

ア 行	組数	カ 行	組数	サ 行	組数
東都獅子(4)	4	傀儡師(3)	2	鷲娘(25)	5
雨の五郎(8)	3	鏡獅子(4)	2	三社祭(10)	2
十六夜清心(5)	1	鐘ヶ岬(10)	2	三番叟(17)	4
梅川忠兵衛(4)	2	鞍馬獅子(3)	2	汐汲(6)	1
浦島(6)	2	五条橋(16)	3	賤の芋環(7)	2
越後獅子(11)	3	小鍛冶(10)	1	執着獅子(1)	1
近江のお兼(10)	8	胡蝶(6)	2	松竹梅(12)	2
お七(5)	2	独楽(3)	2	水仙丹前(8)	2
落人(2)	1			助六(2)	2
お夏狂乱(6)	6			因の扉(9)	1
お三輪(2)	2				
女車曳(5)	2				
タ 行	組数	ナ 行	組数	ハ 行	組数
高尾ぎんげ(4)	4	二十四考(5)	3	羽根の禿(3)	3
玉兔(2)	2	二人狸々(18)	1	雛鶴三番叟(15)	2
滝夜叉(12)	3			風流陣(5)	1
玉屋(7)	3			藤娘(9)	4
蝶の道行(13)	1			双面(5)	1
釣女(6)	1			船弁慶(10)	2
峠の万才(3)	1			文売り(1)	1
供奴(5)	2			文屋(13)	1
鳥辺山(6)	2				
マ 行	組数	ヤ 行	組数	ラ 行	組数
娘道成寺(21)	5	保名(16)	3	流星(16)	2
所化(15)	15	奴道成寺(7)	2	連獅子(17)	2
押戻(2)	2	夕立(1)	1	宗論(5)	1
戻り鯉(12)	2	吉野山(9)	3		
戻り橋(9)	2				

※ 組数とは、一作品に充てる衣裳を一組と数えた場合の数。

資料② 不定型の衣裳〈役柄別分類〉

a 立役

b 女形

役柄	衣裳形態	役柄	衣裳形態
公家	直衣(イ)8 指貫(ロ)8	上臈	唐衣4 小桂6 小袖6 緋長袴5
武将の礼装	狩衣(ハ)10	姫	縫姫(カ)7 かつぎ13 沙掛17
御大将	半素袍(ニ)22 素袍13 織袴15 鍬直垂8 のみこみ(ホ)5 陣羽織5	武士女房 御殿女中	色無地着付13 道中着2 矢掛5
大名礼装	大紋(ヘ)2	娘	友仙町娘着付47 箔小袖37 田舎娘着付10 組合せ2
武士の礼装	長袷1 切袷7 肩衣18 長袴2 大口5 長大口1 着付 ^{のし} 斗目(ト)・横縞8 織・色無地22 箔袴8	傾城(遊女)	胴抜き(ヨ)3 打掛11
武家の平服	着付15 男袴7 紋付羽織16 道中着12	芸者	出揃い着付5 夏物着付21
軍兵	襦袢(チ)5 軽衫(リ)4	手古舞	着付・立付・禰神類12
奴	着付17	舞妓	着付10
荒事	厚綿(ヌ)5 胴丸(ル)5 素纏(ヲ)10	村里の女	着付8
若衆	元禄着付15 袖なし13	子守	着付5
物売り	東からげ着付(ワ)8 袖なし37	茶汲	着付5
狂言師	狂言袴16 立付袴16	物売り	着付1
頭	縮緬浴衣31 伴天23	町人 (世話物)	着付一小紋・格子52
町人・浪人 (世話物)	着付一小紋・綿・格子73 羽織31 背抜き1 袴1	幼人	禿着付9
村里の男	着付31	その他 (非・人間)	比翼4 きつね2 獅子バレン5 黒衣5
幼人	稚子3		
四天	鏡入10 花四天10		
法衣	道服・僧衣28 袈衣3		

第1表 歌舞伎舞踊衣裳一覧(豊田玲子 1978年)

白無垢姿で現れる「白鷺の精」の姿や、衣裳を引抜いた瞬間に「江戸の町娘」転換し、華やかな衣裳で踊る公演の模様などを展示した。また、「日本舞踊扮装展－歌舞伎舞踊娘役衣裳－」は、娘道成寺、鷺娘、三つ面子守、須磨、櫓のお七、お染久松などの扮装を通して、繊細な日本人の美意識を多くの人に認識していただきたいという趣旨のものであったが、この展示と連携させて練馬区との共催による公開講座「歌舞伎への誘い」も開催した。演劇学科の教授や現役の歌舞伎俳優を講師として、歌舞伎の表現、大道具、さらには衣裳、扮装、所作などをテーマとした講座を五回にわたって行ったのである。展示と講座を併せて開催することにより、より多くの方々に歌舞伎や歌舞伎舞踊に親しんただけたものと考えている。公開講座を受講し展示を見られた方々は、中高年の女性が多く、日頃大学とは無縁な方もおられたかも知れないが、こうした機会に大学を訪れ、大学所蔵の博物館資料にふれられることは誠に意義深いことといえよう。大学における公開講座も、大学付属博物館も「大学における教育・研究の成果を社会に還元する」という共通の機能をもつものであり、両者の並行開催は、当然のなりゆきであった。

また芸術資料館では、各種収蔵資料の絵葉書の8枚組セットを制作し関係機関などに配布しているが、平成15年には、『歌舞伎舞踊衣裳』として、[[娘道成寺] 伝六世尾上菊五郎着用 着付]、[[吉野山] 忠信 着付 (東絡げ)]、[[吉野山] 静御前 常盤衣]、[[将門] 滝夜叉 褌襦]、[[文売り] 着付 (紙衣)]、[[藤娘] 着付]、[[子守] 着付 (石持)]、[[鷺娘] 着付のかぶせ (襦袢・裾)] などを作成した。つづく平成16年には、『歌舞伎舞踊衣裳 道成寺物シリーズ』として、[[娘道成寺] 着付のかぶせ]、[[娘道成寺] かぶせの襦袢・帯 (振下げ)]、[[娘道成寺] 伝六世尾上菊五郎着用 着付]、[[娘道成寺] 差込の襦袢のかぶせ二種]、[[娘道成寺] 着付のかぶせ]、[[娘道成寺] 差込の丸襦袢]、[[娘道成寺] 熨斗目・腰巻]、[[道成寺物 打掛] などを作成している。

3. 文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業と歌舞伎舞踊衣裳

オープン・リサーチ・センター整備事業は、文部科学省による私立大学学術研究高度化推進事業のうちの一つであり、学外の幅広い人材を受け入れたり、貴重な学術資料等の保存・公開を含む研究成果等を広く公開するなど、オープンな体制の下で行われるプロジェクトの実施に必要な研究施設、研究装置・設備の整備に対し、重点的かつ総合的な支援が行われるものである。日本大学が文部科学省の支援を受けて行っている事業は、日本舞踊に関する教育システムについて、文理融合型の基盤研究を行うものであるが、あわせてアジアの伝統舞踊との比較研究も行うものである。この事業の主要な部分は、人間の動きを多方面からカメラで捉え、コンピュータで画像処理し、その動きを3次元で表示できるモーションキャプチャ装置により、日本舞踊やアジアの伝統舞踊を計測して、デジタル・アーカイブ化をすることである。これにより、その教育や研究および発展・交流に資することを目的としている。

以上のように、この事業は日本舞踊の教育システムやアジアの伝統舞踊との比較研究も行うものであるが、こうした研究活動の一環として芸術資料館所蔵の歌舞伎舞踊衣裳に関するデータや写真もあらためてデジタル化され、さらに積極的に公開することとなった。

4. 歌舞伎舞踊衣裳の情報公開

(1) 情報公開と担当者

歌舞伎舞踊衣裳の情報公開は、2200万画素の高精細度画質でデジタル・アーカイブ化した写真やデータをウェブ上で公開するものである。博物館資料の写真をウェブ上で公開することは、大英博物館、東京国立博物館をはじめ多くの博物館で行われているが、より詳細な博物館情報の提供を目指して、自在閲覧方式の開発を試みた。

なお、オープン・リサーチ・センター整備事業は、芸術学部丸茂美恵子（祐佳）教授が中心となって進められているが、歌舞伎舞踊衣裳の博物館資料化と情報公開については、次のメンバーで行われた。

統括 鈴木 保彦（日本大学芸術学部教授）
写真担当 高橋 則英（日本大学芸術学部教授）
衣裳担当 丸茂美恵子（祐佳）（日本大学芸術学部教授）
衣裳撮影 田代 衛司（カメラマン：日本大学芸術学部写真学科卒業生）
衣裳解説 大倉 直人（日本大学芸術学部ORC研究員）
解説英訳 堀 邦維（日本大学芸術学部教授）
出羽 尚（日本大学芸術学部ポスト・ドクター）
DB構築 渡沼 玲史

(2) ウェブ上で公開した歌舞伎舞踊衣裳と自在閲覧方式

公開しているウェブサイトは、日本大学芸術学部芸術資料館であり、アドレスは、「http://www.art.nihon-u.ac.jp/am/am_index.html」であるが、上述のオープン・リサーチ・センターのウェブサイト「<http://www.orc-nana.jp>」からも入れることができる。また「Google」などで「歌舞伎舞踊衣裳」と入力して検索してもこのサイトに辿りつくことができる。ちなみにGoogle検索では「歌舞伎舞踊衣裳」の一頁目にこのサイトが出てくる。

日本大学芸術学部芸術資料館のウェブサイトを開いていただくと「舞踊衣裳検索」という文字が出るのでこれもクリックすると第1図のように、「舞踊衣裳検索」、「種類から探す」、「キーワードから探す」、「担当者リスト」などの文字が現れる。また右上の「ENGLISH」をクリックすれば、以下全頁英文で閲覧することが可能である。

「種類から探す」をクリックすると第2図のように、「着衣の種類から検索ができます。」、「着付から探す」、「下着から探す」、「帯から探す」、「上衣から探す」、「下衣から探す」などの文字と絵が現れ、現時点では、「着付から探す」が43件、「下着から探す」が12件、「帯から探す」が3件、「上衣から探す」が10件、「下衣から探す」が3件の合計71件の情報が入力されている。

最初の「着付から探す」をクリックすると、第3図のように「着付で検索しました」、「43件が該当しました」の文字と該当する衣裳とその小さな写真が10件ずつ現れる。

最初の「娘道成寺 伝六世尾上菊五郎着用 着付」をクリックすると、第4図のように「衣裳詳細」としてデータと「カラー写真」が現れる。衣裳の詳細は、『伝六世尾上菊五郎着用「娘



第1図 歌舞伎舞踊衣裳1 舞踊衣裳検索



第2図 歌舞伎舞踊衣裳2 種類から探す

種類から探す

Type Search

着衣の種類から
検索ができます。

着付 で検索しました。

43 件が該当しました。 1 - 10 / 43 件

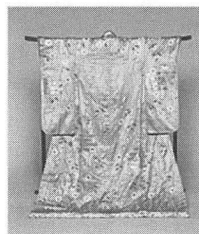
	「娘道成寺」 伝六世尾上菊五郎着用 着付	2004n001
	伝六世尾上菊五郎着用「娘道成寺」 着付	2004n002
	「娘道成寺」 着付のかぶせ	2004n003
	「娘道成寺」 着付のかぶせ	2004n005
	「娘道成寺」 熨斗目	2004n011
	「吉野山」 忠信・着付	2004n013
	「吉野山」 忠信・着付	2004n015
	「鶯娘」 着付のかぶせ	2004n016
	「文楽」 着付(紙衣)	2004n020
	「霧娘」 着付	2004n021

次の10件 ▶

第3図 歌舞伎舞踊衣裳3 着付で検索

衣装詳細

Costume Detail



画像をクリックで、拡大画像がご覧
いただけます。
※拡大画像表示には、JavaScriptを
使用しています。

伝六世尾上菊五郎着用「娘道成寺」 着付

ID	2004n002
演目	娘道成寺
役柄	女
役名	白拍子花子
着衣	着付
着衣の詳細	着付 振袖 二枚付
地色系統	紫
地色	藤
地質	綸子
地模様	立涌
柄	霞・枝垂桜錦取 白地桜模様二枚付
寸法(丈)	217.0 cm
寸法(拵)	74.0 cm
寸法(袖)	99.0 cm
解説	桜花爛漫の紀州の道成寺に白拍子(清姫の霊)が来て娘の踊りを披露するうちに、かつて安珍を隠した鐘を怨んで落とすという踊り。枝垂れ桜の模様を中心に衣裳を7, 8回替える豪華なもので、初めは緋色で引抜いて浅葱に替わる。「恋の手習い」の伴に着用する藤色のもの。これも六世尾上菊五郎が着用したものと伝えられる。

第4図 歌舞伎舞踊衣裳4 着付 衣装詳細

道成寺」着付』として、「ID」2004n002、「演目」娘道成寺、「役柄」女、「役名」白拍子花子、「着衣」着付、「着衣の詳細」着付 振袖 二枚付、「地色」系統 紫、「地色」藤、「地質」綸子、「地模様」立涌、「柄」霞・枝垂桜繡取 白地桜模様二枚付、「寸法（丈）」217.0cm、「寸法（衿）」74.0cm、「寸法（袖）」99.0cmなどのデータと「解説」が入力され、個々の資料の詳細について検索できるようになっている。

また、画面左側の写真は、クリックにより拡大することができる。第5図は、一回目のクリックの写真で全容を現したものである。クリックは8回繰り返すことができ、これにより次第に拡大することが可能である。第6図は最大に拡大した写真である。絢爛豪華な縫取り、鮮やかな染・色彩が一目瞭然である。さらにドラッグすることで移動も可能である。これらの操作により衣裳の個々の部分に亘る細部の観察ができるようにしている。とりわけ各所に施された一つひとつの刺繍は、現在ではむずかしいとされる優れた職人技によるものであり、博物館資料としても貴重なものとなっている。鮮やかなカラー写真の拡大画面でじっくりと見てほしいところである。

データは、上記のようにIDから解説までの15項目にわたるが、「着付」の43件を例にとると「演目」の中には、娘道成寺、奴道成寺、吉野山、鷲娘、文売り、藤娘、子守、鏡獅子、小鍛冶、雨の五郎、正札附、釣女、禿、羽根の禿、源太、舌出三番叟、廿四孝、お夏狂乱、蝶の道行、かさね、近江のお兼など、歌舞伎舞踊の代表的な演目がほとんど含まれており、これらを検索しながら写真やデータ、あるいは解説などを読むことにより、歌舞伎舞踊衣裳の大要を知ることができるようになってきている。また、「役名」の中には、白拍子花子、狂言師左近、佐藤忠信実は源九郎狐、お小姓弥生、稲荷明神、曾我五郎時致、舞鶴、醜女、禿、梶原源太景季、三番叟、八重垣姫、お夏、小槇、助国、かさね、お兼などが含まれており、これも「演目」同様、歌舞伎舞踊の代表的な役名が多く含まれている。

「着衣の詳細」の中には、着付 振袖 二枚付、着付 振袖 かぶせ、半着付 筒袖、着付 紙衣、着付 振袖、着付 石持、半着付、着付 東絡 袖口厚綿、着付 振袖 付付、中振袖 平袖口 黒縹子口留 ささぎ付、着付 東絡 袖口厚綿、着付 振袖 鹿子付付、着付 振袖 かぶせ 黒縹子衿付、着付 中振袖などがあり、歌舞伎舞踊衣裳の複雑にして華麗な形態的特徴や様式を知ることができる。

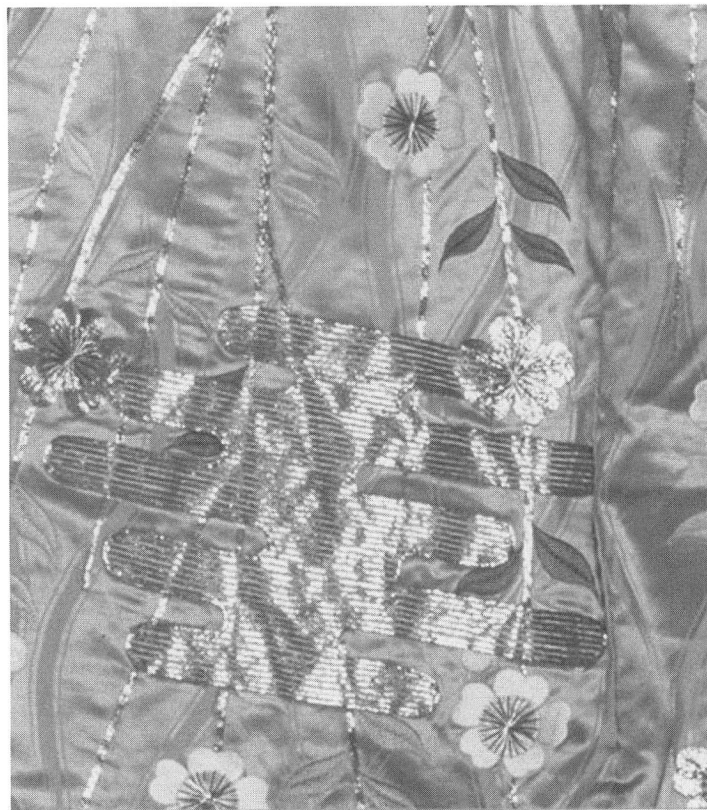
「地色系統」の中には、青、紫、赤、紫・黄、黒、白、緑、白赤、白紫、赤紫、白緑、紫青があり、「地色」には、浅葱、藤、緋、納戸、紫・玉子、黒、白、紫、鴉、萌黄、水納戸（裾）、東雲（肩）、白と樺のぼかし、白と藤色のぼかし、桜 鳩羽、白練に朱のぼかし、白練に鶯のぼかし、薄鳩羽に浅縹のぼかし、桜などが含まれている。現在では日常的にほとんど使用されていない色彩名称も少なくないが、そこには日本固有の伝統的な色彩感覚や美の世界がみえるのであり、高精細度画質のデジタル写真とともに鑑賞してほしいところである。

「地質」の中には、綸子、羽二重、緞子、縮緬などがあるが、同じ絹製品でも様々なものがあることが理解できよう。

「地模様」には、貝合せ、立涌、蘭菊紗綾形、牡丹唐草、流水、紗綾形に菊・桐、蔓花菱三重襷、蘭菊紗綾形、紗綾形に菊桐、紗綾形に蘭菊などが含まれており、日本古来の衣裳に用いられた伝



第5図 歌舞伎舞踊衣裳5 全体写真



第6図 歌舞伎舞踊衣裳6 拡大写真

統的な模様を見ることができる。

「柄」は、このデータの中で最も多種多様なものが見られるものであり、枝垂桜繡取 白地桜模様二枚付、霞・枝垂桜繡取 白地桜模様二枚付、霞・枝垂桜繡取、枝垂桜友禅縁繡、花雪輪模様取合せ、金繡取源氏車裾模様 五ッ紋 海老茶縹子裾、金縁繡取片輪車散らし、黒縹子襟付 雪持ち枝垂梅友禅、黒縮緬肩入 袖覆輪 江戸褙文散らし金銀繡取 黒縹子裾廻し、藤棚染繡取、おもちゃ貝尽し 黒縹子襟付、几帳・四季花柄繡取 金糸の霞雲の中に金糸・色糸で七宝の繡、金紗綾形・雲の台付、大蝶繡取の台付 袖口厚綿、向鶴菱・梅の枝繡取、貝尽し・波繡取、葉玉・梅の花散らし金の繡取、梅・手鞠繡取、箆・梅の花散らし金糸繡取、松竹梅・菊の散らし、菊・竹散らし・芝・雲の中に金糸色糸の樺の繡、菊・秋の草花繡、遠山・白百合金銀繡取、藤の花 金糸繡取 鹿子付付、藤の花 金糸繡取 黒縹子衿付、藤の花 鳩羽色の雲 縁に金箔置、藤の花の丸 銀箔置、秋の草花 金糸繡取、墨絵風の秋の草花、墨絵の蝶、墨染の枝垂桜 銀糸繡取 白地桜模様二枚付、紅葉秋の草花 流水 金糸繡取、鎌輪ぬ・桜・轡の散らしなどがある。これら多数の柄は、地模様と同じ日本古来の伝統的なものであり、植物をモチーフにしたものなどは、こうした衣裳のみならず広く工芸品にも用いられたものであることを知るのである。

また丈・衿・袖などの寸法は、本来尺貫法（くじら尺）によって制作されたものであり、尺・寸・分による記載も考えられるが、博物館資料として正確を期す意味や英文表記のことを考慮し、メートル法による表記とした。

「解説」は、それぞれの衣裳かかる演目やその内容、衣裳にまつわるエピソードなどを盛り込んでいる。

このように、データや解説は資料に関する基本的な事項のみならず、一般にも興味をもって学習してもらえるものになるよう工夫している。ウェブ上で広く公開した意図もここにある。

以下、「着衣の種類から検索ができます。」の項では、「下着から探す」「帯から探す」「上衣から探す」「下衣から探す」もほぼ上記の「着付から探す」と同様の内容となっている。

次に、「種類から探す」と同じ最初の頁の「キーワードから探す」であるが、クリックすると、第7図のように、「演目を入力して下さい」を始め、「役柄」、「役名」、「着衣 着付・下着・帯・上衣・下衣」、「着衣の種類」、「地色系統 赤・青・茶・紫・緑・黄・灰・白・黒・その他」、「地色」、「地質」、「地模様」、「柄」、「解説」など各項目から検索できる頁が現れ、それぞれの項目に前述したキーワードを入力すると該当するものを検索することができる。たとえば、「演目を入力して下さい」に「娘」を入力し検索すると、「娘道成寺」の着付・着付のかぶせ・帯・差込の襦袢のかぶせ・差込の丸襦袢・白拍子花子着付・白拍子花子差込の丸襦袢、「鶯娘」の着付のかぶせ・襦袢・帯、「藤娘」の着付・着付のかぶせ・差込の丸襦袢・丸襦袢、など28件がヒットする。

同じように、「役名を入力して下さい」に「滝夜叉姫」で検索すると「将門」滝夜叉姫・襦袢ほか2件、「着衣を入力して下さい」に「下着」で検索すると「雨の五郎」襦袢ほか12件、「着衣の種類を入力して下さい」に「差込」で検索すると、「娘道成寺」差込の襦袢のかぶせほか6件、「地色系統を選択して下さい」に「紫」で検索すると、第8図のように伝六世尾上菊五郎着用「娘

キーワードから探す

Keywords Search

タイトルや演目等の詳細な項目から検索が行えます。

検索を行いたい衣裳について、右の項目から当てはまるキーワードで検索ができます。
なお、何も入力せず検索ボタンをクリックすると、全衣裳データを閲覧することが可能です。

■ 演目を入力してください

■ 役柄を選択してください

■ 役名を入力してください

■ 着衣を選択してください

着付 下着 帯 上衣 下衣

■ 着衣の種類を入力してください

■ 地色系統を選択してください

赤 青 茶 紫 緑 黄 灰

白 黒 その他

■ 地色を入力してください

■ 地質を入力してください

■ 地模様を入力してください

■ 柄を入力してください

■ 解説を入力してください

キーワードから探す

Keywords Search

タイトルや演目等の詳細な項目から検索が行えます。

「紫」で検索しました。

12 件が該当しました。

1 - 10 / 12件

	伝六世屋上菊五郎着用「娘道成寺」着付	2004n002
	「娘道成寺」鬘斗目	2004n011
	「藤娘」着付のかぶせ	2004n016
	「文楽」着付(紙衣)	2004n020
	「鏡獅子」弥生・着付	2005n002
	「鏡獅子」弥生・着付	2005n003
	「源太」着付	2005n016
	「源太」羽織	2005n017
	「藤娘」着付のかぶせ	2006h005
	「藤娘」着付のかぶせ	2006h007

次の10件 ▶

Nihon University 日本大学芸術学部芸術研究所
A.R.T. Copyright (C) Nihon University College of Art, Department of Theatre

第8図 歌舞伎舞踊衣裳8 紫で検索

第7図 歌舞伎舞踊衣裳7 キーワードから探す

道道寺」着付ほか12件、「地色を入力して下さい」に「黒」で検索すると、「吉野山」忠信・着付ほか12件、「地質を入力して下さい」に「縮緬」で検索すると、「子守」着付（石持）ほか32件、「地模様を入力して下さい」に「蘭菊紗綾形」で検索すると、「源太」着付ほか4件、「柄を入力して下さい」に桜で検索すると、「近江のお兼」お兼・着付ほか9件、「解説を入力して下さい」に「六世尾上菊五郎」で検索すると、「藤娘」着付ほか20件がヒットするという具合である。

これまで述べてきたように、絢爛豪華で色彩美豊かな歌舞伎舞踊衣裳には、多種多様な地質、染色、刺繍、柄が用いられ、さらにその形態にも様々なものが見られるのである。こうした資料を鮮明な画像とともにウェブ上で広く公開し、上述のような自在閲覧方式を採用したのであるが、これにより、多くの方々に歌舞伎舞踊衣裳について楽しく学習していただき、その理解を得ることができれば関係者一同大きな喜びとするところである。また、英文でも全頁閲覧可能としたのは、外国の方々に対し、日本の伝統文化理解への一助になっていただければと願ってのことである。

芸術資料館では、今後もさらにこれを発展・充実させ、計画的に情報を公開する予定である。これについては、博物館や生涯教育関係者各位のご意見なども賜りながら進めていきたいと考えている。ご助言などいただければ幸いである。

引用文献

豊田玲子 1978年「学部所蔵・歌舞伎舞踊衣裳について」『演劇創造』第8号 日本大学芸術学部演劇学科